

薬用植物園で製作したナチュラルリース試作品 および使用した薬用植物の紹介

蔵本技術部門

研究開発支援グループ（薬用植物園） 今林 潔（IMABAYASHI Kiyoshi）

1. 目的

徳島市国府町の徳島大学薬学部薬用植物園は昭和41年に薬学部学生の教育と研究を目的として設立された。本園では社会貢献の一環として一般開放を平成7年から続けており、令和元年で通算33回目の開放を実施した。また、数年前から来園者に園内植物を使用した様々な製作体験を実施している。今回は本園の薬用植物などを使用し、ナチュラルリースの試作品を多数製作してみた。これはいろんな世代の方に、もっと薬用植物を身近に感じ、関心を持ってもらうことが狙いである。そこで、製作にあたり材料の選択や、本園一般開放での来園者向け製作体験や、本学常三島キャンパス開催の子ども向け科学体験フェスティバルでの製作体験、作業の安全性、製作時間など、あらゆる観点から薬用植物でのナチュラルリース製作の可能性を探ってみた。ナチュラルリースとは植物の果実やドライフラワーなどで作るリースのことで、天然素材のもつ魅力をより自然に近い形を1年中楽しめる飾りである。今回のような薬用植物主体のナチュラルリースは珍しく、飾りに使う天然素材も薬用植物の果実などである（図1）。



図1 飾りの天然素材



図2 フジの蔓（1型タイプ）



図3 針金とニッケイ（2型タイプ）



図4 マオウ



図5 ナンテン



図6 クチナシ



図7 ニッケイ



図 8 ゲットウ



図 9 テイツリー



図 10 ウヤク



図 11 コノテガシワ



図 12 キンシバイ



図 13 ローズマリー



図 14 コノテガシワ



図 15 ニッケイ



図 16 サネカズラ

2. 方法

ナチュラルリース製作方法は、1型と2型の2通り試みた。1型は前年冬季に落葉したフジの蔓を丸く巻き乾燥させた、大サイズ、中サイズ、小サイズのフジ蔓リース本体を準備し、これらのフジ蔓の輪(図2)にマオウなど11種の薬用植物の葉を針金やシュロ縄を使用して絡め、飾りつけ材料にグルーガンなどで取り付けた。また、2型は針金にニッケイやサネカズラの葉の端部や中心部を針金

で刺して葉のみで円形をつくるタイプである(図3)。飾りの材料は、今年の秋から冬にかけて収穫した果実などで、詳細は、図1の左から時計回りにオレンジ色の葡萄房のようなゲットウ果実、3つの赤いバラ果実、白色や灰色のジュズダマ果実、オレンジ色のクチナシ果実、赤色で小さなナンテン果実、白花のナカガワノギク、白くてヒゲ根付きのノビル鱗茎、図1の中心部、茶色で蟬の羽型のアカハダメグスリノキ果実、水色や紫色のノブドウ果実、赤色のトウガラシなど10種を準備した。1型は11作品(図4~14)、2型は2作品(図15、16)を製作し、19種の薬用植物等の蔓や葉、果実、鱗茎、花が長期展示可能なのか、13作品を1ヶ月観察した。

3. 使用した薬用植物等の詳細

イネ科ジュズダマの種子[川穀:センコク]はハトムギの代用品として消炎、利尿、鎮痛、水腫などに用いる。ハトムギに比べ、苞鞘がきわめて硬いことから区別できる。漢方利用もある。

キク科ナカガワノギクは徳島県の固有種で絶滅危惧植物に指定されている。

ユリ科ノビルは強壯作用があり鱗茎の黒焼きが鎮咳剤となり、咽頭痛に効果がある。地上部と鱗茎は食用である。

カエデ科のアカハダメグスリノキ、カエデ科のなかでは珍しく三出複葉である。これは日本のカエデ科ではメグスリノキとミツバカエデしかない。中国原産である。

ブドウ科のノブドウの根[蛇葡萄根:ジャホトウコン]を関節痛に煎液を服用あるいは外用で用いる。熊本県球磨地方では赤痢の予防、治癒のため果実を付けた蔓を玄関にかける風習があった。

ナス科のトウガラシは成熟果実[番椒:バンショウ]辛味性健胃薬である。また、皮膚刺激薬として神経痛や筋肉痛に外用する。主に香辛料として利用し、トウガラシチンキの原料である。

マメ科のフジの樹皮のコブ[藤瘤:トウリュウ](図2)は民間的に下痢止め、口内炎に利用する。

マオウ科のマオウの地上茎[麻黄:マオウ]

(図4)は漢方で発汗、鎮咳、去痰薬として用いる。葛根湯の原料の1つで、主成分のエフェドリンは徳島出身の長井長義博士によって発見された。

メギ科のナンテンの果実[南天実：ナンテンジツ](図5)は民間で咳止め、うがい薬に利用する。

アカネ科のクチナシの果実[山梔子：サンシシ](図6)は、消炎や鎮痛を目標に漢方方剤に配合され、黄色着色料にも使う。

クスノキ科ニッケイの根皮[肉桂皮：ニッケイヒ](図7)は、芳香性健胃薬として食欲不振、消化不良に用いる。ニッキと呼び、料理や菓子に用いる。

ショウガ科ゲットウの種子[白手伊豆縮砂：シラデイズシュクシャ](図8)を芳香性健胃薬、香辛料として民間で用いる。沖縄県にはゲットウの葉で餅を包み蒸した食べ物「ムーチ」がある。

フトモモ科ティツリー(図9)のオイルには殺菌作用があり、外傷治療に利用する。クック船長がオーストラリアを発見時に葉をお茶代わりにしたことからこの名がある。先住民アボリジニの民間薬である。

クスノキ科ウヤクの根[烏薬：ウヤク](図10)は健胃薬や鎮痛薬として用いる。秦の始皇帝が徐福に不老不死の霊薬としてこの植物の探求を命じた。

ヒノキ科のコノテガシワの葉[側柏葉：ソクハクヨウ](図11)(図14)は止血、鎮痛作用がある。

オトギリソウ科キンシバイの全草[芒種花：ボウシュカ](図12)は、解毒作用があり、民間で肝炎や咳の治療に用いる。

シソ科ローズマリーの葉[迷迭香：メイテツコウ](図13)は、更年期障害など婦人薬や料理に用いる。ハーブとして葉を料理、ポプリなどに広く利用する。

マツバサ科サネカズラの果実[南五味子：ナンゴミシ](図16)は、鎮咳、滋養、強壮に用いる。また昔、武士が整髪料に蔓の粘液を付けると美男に見えたことから、別名ビナンカズラという。

4. 結果

1型に使用するフジ蔓は2019年冬期に採集して巻いたものを使用した。フジ蔓は落葉する冬期に収穫をすることで葉を落とす手間が省け、巻いたフジ蔓は数年間保存できるので大量に準備できる利点がある。しかし、収穫後1日以内に巻かないと固くなりうまく巻けず、フジ蔓が折れるという欠点もある。1型の作品群は材料をビニールコーティングの針金やシュロ縄で取り付けるので、作業が簡単で作業時間も30分ほどであった。ただ、枝付きの赤いナンテン果実だけはグルーガンで接着させないと本体と外れやすいことがわかった。2型は枝から葉を外す作業を含めると約1時間以上要した。時間短縮に葉を針金に刺した状態のものを準備すれば作業時間は大幅に短縮できるのだが、スタッフの準備負担が大きいことや、製作者の長い作業時間、葉を先の尖った針金に刺す行為はケガの心配もあり、2型はイベントでの製作体験には不向きである。最後に、今後の本園一般開放や、科学体験フェスティバルでのナチュラルリース製作体験に一番適しているのはフジ蔓を巻いた1型であり、フジ蔓に巻く材料はコノテガシワで、飾りの天然素材にはトウガラシ果実や、クチナシ果実、ゲットウ果実が理想的である。